

てげ いっちょが作業療法



作業療法士の

ファイナンシャル・プランニング

リハシャインみやこんじょ 野田 晃司さん



【はじめに】

人生の悩みのほとんどは「健康、お金、人間関係」だと言われています。悩みを抱えたときには誰かに相談するのが一番です。しかし、健康や人間関係は知人に相談しやすいのに、なぜかお金に関することは気心知れた友達同士でも相談しにくいですね。

今後、我々の平均寿命は伸びていきます。高齢化に伴って、お金の悩みを抱える高齢者も増えていく事が予測されます。作業療法士を含む全ての大人がお金の基礎から学び直す必要があるのではないのでしょうか。

【ファイナンシャルプランナーに興味を持ったきっかけ】

資格取得しようと思ったきっかけはコロナウイルスの蔓延です。世間がロックダウンするニュースを見たときに「世間の動きが止まった。今がチャンス。」と思い資格の勉強を始めました。

ファイナンシャルプランナーの資格を選んだ理由として「利用者様の悩みを解決するために」と答えることが出来れば格好良いのですが…。残念ながら違います。最初は「作業療法士以外の稼げるスキルを身につけたい」「自分の資産形成に役立てたい」という理由から試験勉強を始めました。結果的に自分の資産形成にも役立っており、FP資格を生かして副業も始めました。あの時チャレンジして本当に良かったと思っています。

【現在の仕事で活かしている部分】

私は高齢者施設で働いています。施設で働いていると、頻りに利用者様とお金に関する話題になる機会があります。不動産に関する話や、後見人制度、相続に関する悩みが多いです。

作業療法士は障がいを抱えた方や高齢の方と関わる機会が多い職業です。障がい者や高齢者は一般の方よりも情報が不足していたり、社会との接点も少なくなってしまうため、お金に関して相談出来ない方が多いようです。ファイナンシャルプランナーは弁護士や税理士のようなプロフェッショナルではないので、すべての悩みに回答することはできません。しかし、「誰に相談すればよいのか？」という助言はできるし、専門家に頼るまでもない小さな疑問に答えることはできます。

【今後の活用に関する展望】

福祉の現場で、ちょっとした疑問に答える程度の活動は続けていきたいです。お金は老若男女問わず、すべての人に関わる話題です。高齢者だけでなく、活躍の幅を広げていくことも検討しています。

例えば、当社では障がい児を支援する事業所も複数経営しています。子育てを頑張っているご両親へ向けたお金の相談窓口を作ることや、これから社会に出ていく子供たちへの金融教育にも興味があります。

【最後に】

生活とお金は切り離せない関係にあり、作業療法士は対象者が自立した生活を送れるように支援する職業です。作業療法士として働いていると、お金に苦労している方を見かけることも多いと思います。そんな時に少しでも助言して相談窓口へ繋げてあげることで、対象者の生活の質が大きく変化する可能性もあります。お金のプロになる必要はありません。少しの助言ができるようになるだけでも、何かと役立つ時が必ずあります。

少しでも興味を持った方がいらっしゃれば、一度FP試験にチャレンジしてみたいはいかがでしょうか？

宮崎発達勉強会の紹介

エンラボカレッジ 長友 優紀さん

平成16年に、当時、宮崎市総合発達支援センターに所属されていた大先輩が、宮崎県内の小児に携わる作業療法士(OT)で、「勉強会をしましょう。」と、声をかけてくださり、始まったのが宮崎発達勉強会です。

当時はまだ発達障害分野に携わるOTがとても少なく、私も新人だったので、この勉強会ができたことで、2ヶ月に1回、先輩OTと会って、日々の悩み事を相談できる、とても貴重な場所でした。

勉強会の内容は、各メンバーが参加した研修や学会の情報共有、文献抄読、ケース検討など、その都度参加者が学びたい内容を検討して決めていました。

開催頻度は2ヶ月に1回と決めて、場所は参加メンバーの職場を色々見てみたいこともあり、持ち回りで開催していました。

2年に1回は、研修で知り合った先生など、外部講師の方に来ていただいたり、県外で働く先輩OTに来ていただいたりと、幅広く知識を深められるように運営してきました。現在は、外部講師を招く際には、一部県士会の協力も得られるようになりました。

コロナウイルスの感染拡大の影響を受けてからも、オンラインを活用しながら学びが止まらないように、勉強会の開催は継続しています。

現在は、各地域の近隣メンバーが少人数で集まる方達と、個人でオンライン参加している方が、オンライン上で集合し、意見交換をしたり、情報共有をする形でのハイブリッド式の勉強会をしています。

昨年度からは、より学びを専門的に深められるように、内容を症例検討に限定し、症例を提供できるメンバーだけでより密度の高い勉強会を開催しています。

勉強会メンバーの把握はLINEグループ上で行っていますが、全体ではOT以外の職種の方も参加して下さっており、約80名の参加者がいます。しかし症例検討の参加メンバーはOTが中心の約30名になっています。

勉強会の参加の目的は、知識やスキルの向上の方もいれば、各施設の利用状況や求人、地域の事業所の特徴などの情報共有が目的の方も参加しているのだと思います。

各メンバーが、知り得た情報の発信もしてくれており、双方向的にLINEグループも活用して、それぞれのメンバーが目的にあった参加の仕方をしていく勉強会です。



………… おしえてセンパイ!! ……………

～触ってみよう エコー検査機器～

JCHO宮崎江南病院 川俣 陽圭さん

9月7日に宮崎保健福祉専門学校にて、作業療法学科2年生を対象にエコー検査実習を行いました。常々、私はエコーに触れてみないと分からない“感覚”があると思っています。それは、主観と客観の間に降り立った感覚です。たとえば、自分の指を動かせば“いま動かしている”という主観的な固有感覚がありますよね。そして、それをエコー描出すると、モニターには手指屈筋腱や伸筋腱が動いている画像がリアルタイムで映し出され、視覚がそれを客観的にとらえる訳です。これは、非日常的なセンセーショナルな体験です。

学生たちには、「リスト関節部で長母指伸筋腱をエコーでみてごらん…この走行のために長母指伸筋腱は橈骨遠位端骨折の合併症として腱損傷してしまうんだよ。そして、この腱は有名な解剖学的タバコ窩を形成する腱の1つです」とレッスンしました。

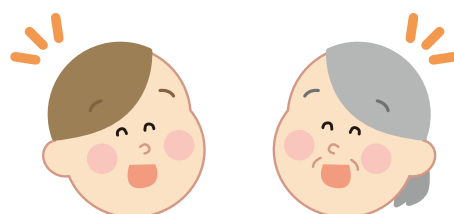
普段、解剖学と親しんでいる学生には、エコーはシミュレーション・ゲームのようなものです。目を輝かせ、描出画像を食い入るように見つめる眼差しが印象的で、未来の作業療法士像を感じられた瞬間でした。



楽しく「からだ」を動かす 新感覚エクササイズ・ロボット

宮崎保健福祉専門学校 清武 昌光さん

LOCOBOTは宮崎大学工学部の山子剛先生、宮崎大学医学部附属病院病院長の帖佐悦男先生が開発された体重移動でロボットを操るシステムです。ボード・ロボット・パソコンから構成されており、ボード上で身体を動かすとロボットが重心移動に合わせて動きます。バランス能力に必要な足関節背屈筋を効率的に刺激し、高齢者の転倒防止に役立つことが期待されています。座位（殿部）、上肢での操作も可能で、スピードや感度を変えることができるため、対象者に合わせた設定が可能となっています。ボーリングやレースなど、レクリエーション感覚で行うことができ、子供から高齢者まで楽しめます。また、身体機能面だけではなく、眼球運動、空間認知、注意機能など様々な使い方ができるシステムになっています。地域のイベントでも活用されており、今後、医療・福祉で活躍するロボットになるかと思えます。使い方は動画（QRコード）をご覧ください。



LOCOBOT動画